

11. 九州（地域別調査機関：公益財団法人九州経済調査協会）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連  (九州)	◎	住関連専門店（従業員）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が高止まりしており危惧されるが、これから高単価の秋冬商材が動き始めるため、単価は良くなると想定している。
	○	商店街（代表者）	・気候が良くなり、新型コロナウイルス感染症対策ができるようになり安心感が出始め、加えて旅行支援の効果もあり、現状より多少良くなると考えられる。
	○	商店街（代表者）	・新型コロナウイルス感染症の状況にもよるが、秋物の動きが活発になっており、秋も深まれば少しずつ景気は良くなる。
	○	一般小売店〔青果〕（店長）	・9月まで当地では、30度を超える気温になると予想される。しかし、全国的には気温が落ち着いて良い商品が出回るようになり、また、涼しくなることで購買意欲も上がり、9月から11月は状況が良くなると想定している。
	○	百貨店（営業担当）	・感染を警戒している状況であるが、Webや通販部門は堅調である。また、嗜好性の高い舶来雑貨・時計・美術・画廊や自家需要の高いリビング用品・家電・食品・和洋酒に加え、スポーツ関連も堅調で、客単価や購買単価は維持している。加えて、非接触QR決済が増え、回復が望める状況である。
	○	コンビニ（経営者）	・新型コロナウイルス感染症に対する危機意識が薄れており、このまま行動制限が適用されなければ、自粛の反動もあり、人の行動は更に活発になる。
	○	コンビニ（経営者）	・新型コロナウイルス感染症の影響もなく、来客数、客単価共に向上きであるため、先行きが悪くなる状況にはない。
	○	コンビニ（経営者）	・外国人受入れの増加や各種イベントの開催により、人の動きは確実に伸びていく。一時期低迷していた深夜時間帯の来客数も再び増加に転ずると予測している。
	○	コンビニ（エリア担当）	・インバウンドを含め、人の流れが活性化することが期待できる。
	○	家電量販店（店員）	・今年の夏商戦は非常に売上が悪い状況である。しかし、家電には波があり現在底であるため、3か月先には若干現況より良くなると考えている。
	○	家電量販店（従業員）	・寒くなると暖房器具の需要が増えるため、先行きは良くなる。
	○	乗用車販売店（従業員）	・9月は半期決算のため、来客数に期待できる。
	○	乗用車販売店（総務担当）	・新車生産が滞っているが、新型車投入効果で売上増加を期待している。
	○	乗用車販売店（役員）	・新型車の投入効果やメーカーの生産台数改善により、販売台数が増加する。
	○	乗用車販売店（役員）	・新型車効果により受注は向上きを維持できると予想するが、供給面は2～3か月では解消の見込みがなく、不安要素も残る。
	○	その他専門店〔コーヒー豆〕（経営者）	・気候の問題もあるが、気温が高くなると客の動きは鈍くなる。コーヒー飲料の夏場の需要は減少するが、店頭での購入量や来客数、客単価を比較すると若干増加傾向である。特に新規の客が目立つようになっている。
	○	一般レストラン（スタッフ）	・新型コロナウイルス感染症の拡大で自粛している状態であるが、次第に慣れ始め食事会など増加していく。
	○	居酒屋（経営者）	・物価高騰など心配な要因はあるが、新型コロナウイルス感染症に対する意識の変化があり、新型コロナウイルス感染症の第7波が落ち着くと景気も良くなる。
	○	観光型ホテル（総務）	・経済活動をやめない国の方針であるということは、いずれ新型コロナウイルス感染症について、感染症法に基づく分類が5類へ変更され、普通の感染症とみなされていくことが予想される。
	○	観光型ホテル（支配人）	・新型コロナウイルス感染症の流行が落ち着き、行動制限が緩和されることにより、景気回復に向けた動きが活発になる。
○	旅行代理店（職員）	・全国旅行支援の開始により、旅行需要が高まると予想される。	

○	通信会社（企画担当）	・新型コロナウイルス感染症による行動制限の解除等で、事業の動きが活発化している。客先を含め新型コロナウイルスの新規感染者数は増加し支障が出ているものの、売上や購入意欲への影響は少ない。
○	通信会社（営業担当）	・新型コロナウイルス感染症の第7波次第だが、新型コロナウイルス感染症発生前のイベントや催しが復活すれば、経済は上向きになる。
○	美容室（経営者）	・秋口になるとおしゃれシーズンになり、客の動きも出てくる。新型コロナウイルス感染症も落ち着くと予想されるため、客の動きは良くなり、3か月先の景気は上向くと確信している。
○	その他サービスの動向を把握できる者（所長）	・新型コロナウイルス感染症第7波で新規感染者数が多くなり、客先でも感染者や濃厚接触者が毎日出ている状況ではある。しかし、対応に慣れてきており、経済活動そのものが活発になると考えている。2～3か月先は楽観的ではあるが、新型コロナウイルスの新規感染者数も減少していると期待している。
□	商店街（代表者）	・ここ2～3年の傾向から、全く予測が成り立たない。したがって、先行き不透明であるため、今後が懸念される。
□	商店街（代表者）	・夏物商材の売上は過去最低の状態となり、景気回復の兆しは見当たらない。
□	商店街（代表者）	・新型コロナウイルス感染症の第7波が収まり、第8波がどのような状況で発生するのか全く想像できない。新型コロナウイルスの新規感染者数が急激に増加しなければ景気は若干良くなるが、新型コロナウイルス感染症の第7波のように感染拡大すると更に景気は落ち込むと考えている。
□	商店街（代表者）	・新型コロナウイルス感染症は終息せず、加えて、客は商品や食品の値上げにも関心を持っている。慎重な購買は今後も続いていく。
□	商店街（代表者）	・今後の新型コロナウイルス感染症の感染状況が分からないため、先行きが不透明で景気は変わらない。
□	一般小売店〔生花〕（経営者）	・8月はお盆があり、12月はクリスマスや正月があるが、9月から10月には特にイベントがないため、大型店舗のオープンがなければ売上は変わらない。
□	百貨店（総務担当）	・新型コロナウイルス感染症の状況は不透明で、物価は高騰し、ヒット商品もでないと考えられる。
□	百貨店（企画担当）	・大きなイベントや催事がないため、現状維持を予想している。
□	百貨店（企画担当）	・プレミアム付商品券等による景気刺激策はあるものの、新型コロナウイルスの感染拡大にめどが立たないため、効果としては限定的だと考えられる。また、商品供給量の減少や原材料の価格高騰等のリスクが多いことから、今後も足踏み状態が継続する。
□	百貨店（企画担当）	・新型コロナウイルス感染症や円安、物価高騰などで、今後の影響が不透明であるため予測が付かない。
□	百貨店（経理担当）	・新型コロナウイルス感染症の影響で、高齢客が伸びていない。売上は前年を上回っているが、2019年度の新型コロナウイルス感染症発生前の90%前後で推移している。
□	百貨店（販売促進担当）	・新型コロナウイルスの新規感染者数の減少を見込めないため、売上や来客数共に変わらない。
□	百貨店（経営企画担当）	・現況では食料品や衣料品等の動きは悪くないが、物価高や気温上昇によるエネルギー消費量の増加により、買い控え傾向となることが予想される。
□	百貨店（業務担当）	・客の生活様式が、新型コロナウイルス感染症と共存する状態で安定すると、客の購買行動は大きく変化しない。
□	スーパー（店長）	・3か月後も現状と余り変化がないと判断しているが、更に悪化する可能性もある。物価高騰対策で、政府の支援があれば景気が上向き可能性もあるが、消費者の支出は低下した状態が続くため、景気回復はなかなか望めない。
□	スーパー（総務担当）	・値上げが今後も続く見込みであり、また、世界情勢の変化で光熱費も高騰していることから、年末を控えた11月は景気が上向き材料が見当たらない。
□	スーパー（経理担当）	・値上げの影響が数値にはっきりと出ている。今後も単価の上昇により買上点数が減少し、結果として買上金額の減少が続くと予想される。
□	コンビニ（経営者）	・3か月後に周辺環境が変わるとは考えられず、厳しい状況が今後も続く予想される。

<input type="checkbox"/>	コンビニ（エリア担当・店長）	・台風で、水や非常用食品などの需要が一時的に多くなる。10月にはたばこの値上げがあるが、それ以降は売上や来客数が伸び悩むと予想している。
<input type="checkbox"/>	衣料品専門店（店長）	・秋冬商材が動いてほしいが、今の状況と変化はない。
<input type="checkbox"/>	家電量販店（店長）	・新型コロナウイルスの新規感染者数に来客数が反比例する傾向は変わらず、落ち着くまではこの状態は続く。
<input type="checkbox"/>	家電量販店（店長）	・商品の安定供給の見通しが立たず値上げが続いていることから、すぐに購入に至らないケースが散見される。新型コロナウイルス感染症の第7波が想像以上に長引いており、すぐに状況は変わらない。
<input type="checkbox"/>	家電量販店（店員）	・半導体不足や原油高で家電商材も単価が上がっている。しかし、必要としている客は購入しているため、全体の売上に変化はない。この傾向はしばらく継続すると考えられる。
<input type="checkbox"/>	家電量販店（従業員）	・来客数が伸長している一方で、買上単価と買上点数が減少する傾向が続いており、身の回りの景気は余り変わらないと考えている。しかし、停滞していた物流が動き出し、商品入荷の不安が解消されつつあるため、在庫不足による機会損失は少ないと予測している。
<input type="checkbox"/>	乗用車販売店（従業員）	・現在、生産のめどが立たないため、好転する見込みはない。
<input type="checkbox"/>	住関連専門店（経営者）	・新型コロナウイルス感染症は月末には緩やかに減少する傾向にある。プレミアム付商品券の効果もあり、経済活動は活発にみえるが、新型コロナウイルス感染症が終息したわけではないため、先行きは不透明である。
<input type="checkbox"/>	その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（支配人）	・原発の再稼働でエネルギー価格が下がれば、現状より経済状況が和らぎ、財布のひもも緩むと考えられる。また、当ショッピングセンターでは、映画のヒット作品にも大きく影響される。そのため、先行きは物価高騰の報道やシネマ及び原発の稼働次第で状況が変わる。
<input type="checkbox"/>	その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（統括者）	・インバウンドの回復が遅い。
<input type="checkbox"/>	高級レストラン（経営者）	・企業相手のレストランであるため、お盆休みの影響もあり8月の売上が最低であった。2～3か月後はこれ以上悪い状況にはならないと考える。
<input type="checkbox"/>	高級レストラン（経営者）	・新型コロナウイルス感染症の影響で外出自粛に慣れ、外食をすることもなくなり、今後を懸念している。
<input type="checkbox"/>	一般レストラン（経営者）	・新型コロナウイルス感染症の状況次第であるが、国の早急な対策や判断が必要である。
<input type="checkbox"/>	観光旅館組合（職員）	・気候は良くなるが、新型コロナウイルスの感染状況に左右される。
<input type="checkbox"/>	都市型ホテル（スタッフ）	・外国人の入国緩和が大きなポイントであるが、まだまだ時間が掛かると予想している。
<input type="checkbox"/>	タクシー運転手	・ゴルフシーズンになるが、新型コロナウイルス感染症の収束が分からないため、人の動向は余り変わらない。
<input type="checkbox"/>	タクシー運転手	・新型コロナウイルスの新規感染者数が高止まりしている状態でも、ある程度の景気回復が続いており、しばらくは維持できると予想される。
<input type="checkbox"/>	通信会社（社員）	・半導体不足で商品が入らず、景気が良くなる好材料が特にない。
<input type="checkbox"/>	通信会社（企画担当）	・光回線販売件数の減少傾向の改善がみられない。
<input type="checkbox"/>	通信会社（統括者）	・来客数増加策として、シニア向けのスマートフォン教室等を開催しているが、その影響は見受けられない。来店には、予約制が浸透しており来客数増加は見込めないが、来月発売予定の商品の販売増加を期待する。
<input type="checkbox"/>	理容室（経営者）	・当地でも新型コロナウイルスの感染が拡大しているが、製造業では回復傾向の企業もある。一方、美容室関係では、客の来店期間が延びており、厳しい状況が続いている。
<input type="checkbox"/>	美容室（店長）	・現況では、景気が良くなるとは考えられず、今月の来客数も減少している。
<input type="checkbox"/>	設計事務所（所長）	・今月の実績は3か月後に出るため、景気には変化がない。
<input type="checkbox"/>	住宅販売会社（従業員）	・新型コロナウイルス感染症関連の考え方に変化があり、コロナ禍ではあるが行動制限はないため、外出が多くなっている。人に動きがあれば金も動くため、景気も若干良くなる。
<input type="checkbox"/>	住宅販売会社（従業員）	・住宅関連の補助支援が影響し、住宅を検討している客の動きは今後も続いていく。

	▲	商店街（代表者）	・商店街の来街者数が、夏休みにもかかわらず大変少なくなっている。その要因は、猛暑と新型コロナウイルス感染症の拡大により、外出を控えていることにあり、各店が苦戦している。小売店ではW e b販売等に押され、売上が落ち一段と難しい状態になっており、小売店に限らず、飲食業でも厳しい状況である。
	▲	一般小売店〔鮮魚〕（店員）	・今後もこの最悪な状況が継続するのではないかと危惧している。このままでは魚屋が廃業し、魚屋という文化がなくなるのではないかと危機感を持っている。
	▲	一般小売店〔茶〕（販売・事務）	・物価の上昇と新型コロナウイルス感染症の影響により、収入が減少することで購買意欲が減少しており、必要がない商品の購入は控えている。加えて、レジでの追加購入をしていた客も必需品のみの購入になっており、今後の売上に期待できない。
	▲	コンビニ（店長）	・新型コロナウイルスの新規感染者数の増加が運営面に影響している。
	▲	乗用車販売店（代表）	・物価高や新型コロナウイルスの感染拡大による影響で、更に景気は悪くなる。
	▲	スナック（経営者）	・新型コロナウイルス感染症の終息がみえないため、中高年層の会社員の来客数が激減している。さらに、ロシアのウクライナ侵攻による物価高騰も加わり、外食への出費もますます減少することが予想される。インバウンドの全面解禁もみえないため、景気が良くなる要因が見当たらない。
	▲	その他飲食の動向を把握できる者〔酒卸売〕（経理）	・新型コロナウイルスの新規感染者数が増え続けている状態で夏休みが終わる。学校の再開で更に感染が拡大すると予想され、景気は悪い状態が数か月続く。
	▲	観光型ホテル（専務）	・夏休みが終わると家族連れが激減する。新型コロナウイルスの新規感染者数が多いため、秋のシーズンに多かった団体客の減少が危惧される。
	▲	通信会社（役員）	・生活に物価上昇の影響が出ており、身の回りの物価が緩やかであるが、確実に上昇している。また、円安も続いており、景気が回復する要素が見当たらない。
	▲	ゴルフ場（従業員）	・コロナ禍が日常となり、新型コロナウイルス感染症が落ち着くまでは、もう少し期間が必要であり、その間は厳しい状況が続く。
	▲	ゴルフ場（営業）	・新型コロナウイルス感染症の第8波が発生し、新型コロナウイルスの感染再拡大で、再び人流抑制が行われると考えられる。
	▲	競馬場（職員）	・仕入れで値上げの話が増えており、多方面に影響が出るおそれがある。
	▲	その他サービスの動向を把握できる者〔介護サービス〕（管理担当）	・新型コロナウイルス感染症の方向性見直しで、感染防止対策による消耗品購入の増加やエネルギー等の負担が大きくなり、一層の収益悪化が予想される。
	▲	設計事務所（代表）	・物価が上昇しているが、賃金は上がっておらず、先行きが不安である。
	×	商店街（代表者）	・商店街では4月と8月に火災があり、2分の1が消失している。そのため、市や県、国の協力で営業を継続しながら再開が進んでいる。被害に遭った店の立ち直りが今後の商店街の重要な課題になるため、状況を模索しながら営業を継続し、支援を期待している。
	×	スーパー（店長）	・新型コロナウイルス感染症が感染拡大しているが、店は都心部にあるため、行動が規制されていないため客の行動が内食から外食へ移行することは避けられない。
	×	設計事務所（所長）	・世界情勢にも左右されるが、今後も材料や製品の価格上昇は続くため、景気の回復は期待が薄い。
企業 動向 関連  (九州)	◎	—	—
	○	農林水産業（従業者）	・現在、九州の産地は秋冬野菜の種まき定植が終わり、9月に向けて収穫シーズンとなっていく。現在のまま、北海道の出荷が低迷すれば、収穫初期は高値の恩恵を受けられる可能性がある。新型コロナウイルス感染症の影響による物流や外食消費が止まらないことを願っている。
	○	食料品製造業（経営者）	・季節性のある商品の製造、販売共に繁忙期となる。
	○	化学工業（総務担当）	・今期の損益状況は上昇しており、その傾向が続く。

○	一般機械器具製造業（経営者）	・半導体の動きが良くなっており、それに対する対策が採られているため、業界全体の動きが良くなっている。客からもそれなりの受注量を受けている。
○	電気機械器具製造業（取締役）	・来年以降の自動車や半導体は、共に若干強気の見通しである。
○	その他製造業〔産業廃棄物処理業〕	・増産体制はできており、今後の原材料調達がうまくいけば景気は良くなると予想される。
○	金融業（営業）	・新型コロナウイルス感染症の第7波の状況次第では、3か月先はピークアウトしていると考えられる。しかし、今回は行動制限がないため、景気への悪影響は少ないことも予想される。
○	金融業（調査担当）	・新型コロナウイルス感染症の拡大が落ち着き、収束に向かえば人流減少による影響が徐々に緩和される。また、製造業に影響を与えている資源価格の高騰や供給不足については、回復するまでにはまだ時間を要すると予想する。
○	経営コンサルタント（代表取締役）	・自社のWebや資料請求サイトの間合せが増加している。
□	農林水産業（経営者）	・原料調達も計画の段階では、この秋口には順調に推移していくと予想する。工場生産も厳しかった8月と比較すると9月から10月には大きな問題は見当たらない。ただし、資材の値上げ等で、費用が大きな負担となっており、それを補うために商品の値上げをしたいところであるが、取引先の返答は厳しい。前年の秋とは違い厳しい状態になる。
□	家具製造業（従業員）	・新型コロナウイルス感染症による行動制限が今後も適用されなければ、今以上に市場が冷え込むことはない。しかし、長期の大型案件情報はあるものの速急な案件はなく、年内まで厳しい状況が続くことが予想される。
□	金属製品製造業（事業統括）	・物価高騰の改善について見通しが立たない限り景気は変わらない。
□	一般機械器具製造業（経営者）	・取引先の状況では、電子部品が品薄で入荷が遅れているため、自社の製造工程が遅れている。その影響のため、当社への調達も見送られている。
□	電気機械器具製造業（経営者）	・受注は、引き続き好調が見込まれる。
□	輸送用機械器具製造業（営業担当）	・生産数は内示計画を維持しているが、10月以降も半導体不足が予測されており、先行きは不透明である。
□	建設業（従業員）	・官庁の工事入札に参加するが受注に結び付かない。大きな物件が受注できず規模が縮小するため、景気は変わらない。
□	建設業（社員）	・第3四半期までは、発注予定が多くあるようだが、社員間で新型コロナウイルス感染症に感染しないようあらゆる感染対策を実施し、元請にも迷惑の掛からない施工を実施している。多くの補正予算計上を望んでいる。
□	輸送業（従業員）	・新型コロナウイルス感染症発生前の景気が戻るとは考えていない。荷主も数多く、新規事業案を従業員から募集している企業もある。倉庫も空坪が目立っており、従来は同業者からの引き合いも多かったが、最近では減少傾向である。
□	通信業（職員）	・官庁が施主の営業案件数と受注予想額が伸びておらず、受注目標に対し厳しい状況となっている。
□	通信業（経理担当）	・予算見直しの時期であるが、利益目標は当初予算の水準を維持する見込みである。
□	金融業（従業員）	・百貨店の売上や住宅販売は持ち直しており、また、旅行業界や飲食店の売上も次第に回復傾向を示している。しかし、新型コロナウイルスの新規感染者数が高水準にあることから、一部にキャンセルの動きが出ている。
□	金融業（営業担当）	・新型コロナウイルスの新規感染者数は、今後緩やかに減少すると予測されるが、景気回復は全体的な物価高の影響で利潤は少なく、余り見込めない。消費者マインドも変わらないと考えられるため、やや悪い状況が2～3か月先も変わらない。
□	金融業（調査担当）	・新型コロナウイルス感染症の終息がみえず、当面は慎重な行動が続く。
□	不動産業（経営者）	・先行き不透明であるため、現況と変わらない。
□	不動産業（従業員）	・商業施設の売上が横ばいに推移している。
□	新聞社〔広告〕（担当者）	・好材料が見当たらないため、今後も変化がない。

	□	広告代理店（従業員）	・ロシアによるウクライナ侵攻が長期化しており、また、新型コロナウイルス感染症の影響で、物価上昇が企業収益を圧迫している。この傾向がしばらく続くと予想している。
	□	広告代理店（役員）	・3か月予想では、大きな変化が見当たらない。
	□	経営コンサルタント（代表取締役）	・新型コロナウイルスの感染状況で大きく変動すると考えられる。
	□	経営コンサルタント（社員）	・これまで目立った動きが見られず、今後もこの動きは変わりそうにない。
	□	その他サービス業〔物品リース〕（職員）	・今後も変動する要因は見当たらず、大きな変化はみられない。
	□	その他サービス業〔コンサルタント〕（代表取締役）	・今年度の委託業務の発注は、8月でおおむね終わり、今後の市町村からの発注は、少なくなる。6月補正予算でも調査や計画、設計等に対して委託業務への予算計上は減少しており、受注できる機会も少ないまま推移していき、景気は悪い状態が継続すると考えられる。
	▲	繊維工業（営業担当）	・毎年最低賃金が大きく上昇するが、工賃を上げることは難しい状況である。
	▲	電気機械器具製造業（総務担当）	・客の予想では、景気はやや悪くなる。
	▲	輸送業（総務担当）	・更なる物価の上昇や最低賃金の上昇、社会保険適用の拡大等、地域経済に影響を及ぼす要因が控えている。痛みを伴うため、一時的に景気が悪くなるおそれがあるが、個人消費が増えれば経済も徐々に回復すると期待している。
	▲	経営コンサルタント（社員）	・急激な円安の影響が、すぐに戻るとは考えられない。
	×	窯業・土石製品製造業（経営者）	・ふるさと納税では、商品よりも食品を選んでいるような状況である。今後の商社の動向について、今まで納品していた商品が継続できるかは、値上げの影響を受け難くなっている。今後、どのような状態で商品の流通が変わっていくか大変懸念される。
雇用 関連 (九州)	◎	民間職業紹介機関（職員）	・新卒の就職市場は、物価上昇やロシア、ウクライナ情勢による影響を受けにくく、経済活動も復活しており、今後は更に良くなると期待される。
	○	人材派遣会社（社員）	・新型コロナウイルス感染症による行動規制の緩和もあり、施工が増えていくと予想される。
	○	人材派遣会社（社員）	・安定的に新型コロナウイルス感染症の発生前を上回る求人数となっており、求職者の動きも賃金の高い就業先への動きが活発化している。
	○	人材派遣会社（社員）	・お中元の注文があった企業からは、お歳暮の問合せがある時期となる。
	○	人材派遣会社（社員）	・不景気のときは控えていた直接雇用を派遣へ切り替えるなどの相談が多数あり、求職者の動きも出ている。
	○	新聞社〔求人広告〕（社員）	・新型コロナウイルス感染症の第7波、第8波の状況次第ではあるが、新型コロナウイルス感染症の第7波における新規感染者数が減少しつつあり、2～3か月先の景気は、現状より若干改善されると推測される。
	○	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・新型コロナウイルス感染症の第7波が落ち着けば、消費活動やイベントなども活発化してくる。秋には連休も多く、観光やレジャーなどで盛り上がりが見られると考える。
	○	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・新型コロナウイルス感染症が収束する気配がないが、経済活動は緩やかに増えつつある。
	○	民間職業紹介機関（社員）	・百貨店等今まで採用を控えていた業界が採用に動き出しているため、全体的に景気上昇に向かってると予測できる。
	□	求人情報誌製作会社（編集者）	・秋から年末にかけて行楽シーズンになるため、景気上昇を期待しているが、一方では新型コロナウイルス感染症の第7波の影響が長引いており、先行き不透明である。求人需要も積極的であるとはいえない。
□	学校〔大学〕（就職支援業務）	・新型コロナウイルス感染症の第7波の終息は先が見えないが、新型コロナウイルス感染症の防疫と経済活動の両立が進み、日本経済には明るい兆しもある。一方で、依然ロシア、ウクライナ情勢の長期化や今後も物価高が続く見通しであるなど、日本経済への影響も大きくなっている。秋以降には値上げが控えており、この状況はしばらく続くと予想されるため、今後の景気の状態や企業の求人数にも注視が必要である。	

▲	職業安定所（職員）	・新型コロナウイルスの感染拡大で、宿泊業からは予約のキャンセルが発生している。また、新型コロナウイルス感染症の感染や原材料の価格高騰により、地元の事業所が業績不振を原因に倒産が続いている。
▲	職業安定所（職員）	・新規求人数が前年11月以降、10か月ぶりに前年比を下回ると予想される。新型コロナウイルス感染症の影響による休業相談や雇用調整助成金の申請件数が、3月以降、6か月ぶりに増加へ転じている。
▲	職業安定所（職員）	・新型コロナウイルス感染症の影響に伴う特例である雇用調整助成金の見直しが10月以降見直された場合に、体力低下している中小企業が雇用を維持できるのか懸念される。
×	—	—